



新発田市立紫雲寺小学校

学校だより 1 2月号

<http://shiunjies.shibata.ed.jp>

平成23年12月14日

伝統を受け継いで

紫雲寺小学校長 小林 幹雄

そろそろ思いながら、冬支度を進めてきましたが、まだまとまった雪はありません。今年の冬は平年並みとの予報も聞かれます。ドカ雪は困りますが、適度に降り、冬は冬らしくあったほうが良いと思います。いかがですか。

2学期もあと少しとなりました。学校では学習や生活のまとめの段階です。終業式での頑張ったことやできるようになったことの発表がとても楽しみです。

先月19日、公民館で子ども芸能音楽祭が催され、例年通り、紫雲寺地区の小中学生による器楽演奏や伝統芸能が披露されました。当校の児童も、5・6年生が干拓太鼓を、また、稲荷岡、五ヶ字の子どもたちが神楽舞を披露しました。どれも大勢の観客の前で実に堂々とした素晴らしい演技、演奏でした。

子どもたちの神楽舞を見る度に、よくもこれだけの難しい踊りを覚えたものだと感心します。天狗や獅子が登場する舞は勿論のこと、全員で行う手踊りにしても、演目も複数あり、それぞれに振りが違います。就学前の小さな子どもたちが踊る姿があって、綿々と受け継がれてきている伝統の素晴らしさを感じています。ある時、神楽に参加している3年生の男の子が、自分が来年やる予定の役を誇らしげに教えてくれました。自分なりにやるべきことを自覚し、取り組んでいこうとする意気込みが感じられ、嬉しくなりました。

私の地域にも、子どもたちが代々受け継いできた「地蔵様」の行事がありました。7月23日の「地蔵様」に向けて、小屋を作るのです。小屋は、二階屋で、はさ木とカヤの簀（す）を主な材料に高さ4メートルにもなるものでした。中学校3年生の大将を中心に、小学校1年生までの男子がこれに当たります。大人の指導者がいるでもなく、もちろん凶面などありません。ただ、それまでやってきた経験だけが頼りです。それでも毎年、立派な小屋が完成していました。小学校低学年は草取りや石拾い、作業の手子（助手）が主な仕事です。縄を切ったり、はさ木を縛ったりと学年が上がるにつれて大事な役が与えられていきます。一つ上の学年の仕事ぶりを見ながら、来年の自分の仕事を覚えていったものです。子どもたちなりの縦社会で、上級生から、家々の訪問の仕方や年長者との接し方、ナタや鎌などの道具の使い方、仕事の段取りなどなど本当に多くのことを教わりました。私の貴重な体験です。

子どもたちの神楽を見ながら、そんな子どもの頃のことを思い浮かべていました。紫雲寺には本当によい伝統が残っています。この子どもたちが大人になった時に、また、子どもたちに神楽を教えながら、地域の心を伝えていってくれるものを思います。

さて、紫小の伝統、「干拓太鼓」も、第22代目への引き継ぎを始めました。太鼓は6年生が、篠笛は、5・6年生がそれぞれ師匠になって演奏を伝授しています。伝統を引き継ぐ子どもたちの瞳は真剣で、大事に守り伝えていこうとする強い気持ちを感じられます。お披露目は3学期の6送会になります。22代目の演奏を楽しみにしててください。

登下校も冬道になりました。裏道とはいえ、危険な場所もあります。子どもたちの様子を見て、気になることがありましたらお知らせください。

もうすぐ冬休み、どうぞ、お正月に向けて家族の一員として、仕事をさせてください。そして、「ありがとう」「助かった」と声をかけてあげてください。あてにされていること、みんなの役に立っていることを自覚するいい機会になると思います。家族団らんで、よいお年をお迎えください。